

表1 目標分析表 単元名(日本の歴史~武士の世の中へ) 第6学年

内容の要素	行動の要素		認 知				技能B	情意C
			認 識		関 係 認 識	概 念 認 識	操 作	態 度
	用 語 A1	観 察 A2	資 料 A3	関 係 づ け る A4	概 念 を と ら え る A5	地 図、図 表、年 表 の か き 方 B1	興 味 関 心 意 欲 C1	
(武家社会の形成と、そのなかで強まる下層上の風潮)	鎌倉幕府の特色	鎌倉幕府は東関東の武士の親の基盤を築いた	幕府・執権・守護	地 図 や 写 真 等 を 用 いて、幕府の特色を明らかにする	関 東 武 士 の 願 い や 鎌 倉 の 願 い を 明 確 に 述 べ る	将 軍 と 武 士 と の 関 係 を 考 え る	鎌 倉 幕 府 の 創 立 時 代 の 特 徴 を 年 表 で 表 現 し て みる	歴 史 的 な 動 向 を 追 っ て みる
	鎌倉武士の気	鎌倉武士は主として農を営み、戦いをする	武家造 鎌倉武士 御成目 禅宗 (質実剛健) (一所懸命)	「武士の館の貴族が描かれた指摘し、問題をかき」	「所領の武士のくらしや、鎌倉の武士の生活や、武士の気風を説明する」	鎌倉武士の生活や、武士の気風を説明する	公に賞を賜う	物・つと
	元の襲来とその影響	元が日本に攻めてきた事実や、公武一体となつて防戦したことを理解させる	元	年表や地図を用いて、元の襲来を説明する	対する元軍の気風や、防戦のいきさつを説明する	元が日本に攻めてきた事実や、公武一体となつて防戦したことを理解させる	文化	子地や関

習課題の二つのねらい(戦いの様子と元寇後の影響)をつかませ、学習後の概念形成の見通しをもたせた。更に学習計画時に収集分類した児童の資料をもとに、学習の手順と方法を明らかにした。

(調べる段階)——小集団(資料の選択、活用)対比、関連的読みとり訓練のため)で調べた結果と準備資料とを対比、関連させながら、集団戦法と火薬兵器を使う元軍に、不利な戦いを克服して戦いぬいたことや、その背景には「鎌倉武士」の気風があったことをとらえさせた。更に、元寇年表を併用し、三十三年間の戦争態勢と出費、取得のない勝利、武士の願い恩賞と不満、幕府の努力などを関連づけて、元寇は幕府崩壊の原因となつていくことに気づかせた。

(まとめる段階、ひろめる段階)

——学習課題に照合させて、学習をまとめさせたが、武家社会の形成課程での鎌倉幕府と鎌倉武士との関係にも留意させた。そのうえで、幕府崩壊の予想をもとに新しい時代を向けさせ、次時の学習課題を設定した。

### 六、考察と今後の課題

(一) 診断的評価によって明らかにした児童の実態を、目標分析表にどのようになかし、更に指導の

表2 指導計画表 題材「武士の世の中へ」第6学年

小単元目標	○鎌倉幕府の創立とそれを支えた鎌倉武士の質実剛健な生活や気風、元の襲来に対して困難をしりぞけた当時の人々の働き、室町時代の政治と庶民の動き、産業の発達について具体的な事実をもとにとらえさせる。						
次 内 容	本 時 の 目 標	時 間	指 導 過 程	記 号	下 位 行 動 目 標	備 考	
1 学習計画	「貴族の世の中」とのかかわりから、単元全体を見通し、学習計画を立てさせる。	1	学 習 計 画				
鎌倉幕府の創立とその特色		1	鎌倉幕府と 鎌倉武士	A3ア A4ア A4ア A5ア			
鎌倉武士の気		1	鎌倉幕府の特色				
		1	鎌倉武士の生活と気	A3イ A4イ A4イ A4イ A5イ			
2 元の襲来とその影響	元の襲来に対して公武一体となつて防戦したことを理解させる。この防戦が幕府崩壊の要因となつたことに気づかせる。	1	元寇と鎌倉武士	A3ウ A4ウ A4ウ A5ウ	○元が日本に攻めてきた事実や理由を、年表・地図・文章資料から指摘することができる。 ○元軍に対して公武一体となつて防戦したことを、年表・地図などから読みとれる。 ○元寇の役は鎌倉幕府崩壊の要因となつたことを、戦費と恩賞との関係から考察できる。 ○元寇にあつた公武一体となつて防戦したが、恩賞もなかつた鎌倉武士は多額の戦費を生活苦から、幕府に対して不満をもつようになり、幕府崩壊へ発展したことをまとめる。	① ② ③ ④	

実践をどのようにするか。

(一) 指導のねらいと目標分析表が直接結びつきたためには、どのようにすればよいか。

(二) 目標分析と行動目標と形成的評価の関係はどのようにすればよいか。

(三) 形成的評価の関係を明らかにする。

(四) いっせいの指導の中で、形成的評価をする場合、どのようにすれば効果的か。

(五) 形成的評価によって、学習上のつまづきが明らかになつたあとで、どのような手だてをとればよいか。

(六) フォードバックによる単線的な指導と別な手だてによる複線的指導のあり方。

(六) 形成的評価をする場合、どのような観点で評価すれば、つまづきを明確にとらえられるか。